

 <p>笑顔輝き やさしさあふれる 桃二小</p> <p>桃二 — 学校便り —</p> <p><桃二小ホームページ> http://nk-momo2-e.a.la9.jp/</p>	<p><教育目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ 元気な子 	<p>～開校99周年～</p> <p>令和2年5月11日(月)</p> <p>No. 3 (5月 臨時号)</p> <p>中野区立桃園第二小学校</p> <p>校長 山崎 義弘</p>
---	--	--

ピンチはチャンス！ 今こそ、自ら学ぶ力を子どもたちに育てるチャンス！

校長 山崎 義弘

緊急事態宣言の延長に伴い、学校の臨時休業を延長することとなりました。保護者・地域の皆様におかれましては、臨時休業へのご理解とご協力をいただき、ありがたく存じます。特に、保護者の皆様におかれましては、お子様の生活リズムの維持と家庭学習へのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

ご安心ください ～子どもたちの学習状況を把握（評価）し、必要な指導を再開後に行います～

子どもたちが教員の指導を受けて学習できないことにより、保護者の皆様は不安を感じていらっしゃると思います。子どもたちの学習状況については、電話連絡時のお子様との会話や回収したワークシート等を見ることにより、子どもたちの理解度や到達度を把握（評価）するよう努めています。これに加え、学校が再開しましたら、改めて子どもたち一人ひとりの学習状況を把握（評価）し、必要な指導を行います。個別指導や復習等の機会を設けることもあります。家庭学習を終えての子どもたちの学習状況を評価して、指導に生かしますので、ご安心ください。

一緒に取り組みましょう ～自ら学ぶ力を子どもたちに育てるチャンスだととらえて～

一方で、このような状況を、子どもたちの学力向上のための一つのチャンスととらえたいと考えます。なぜなら、教科書を読んで、自主的に学習を進めていく、という学習は学び方の基本であるとともに、これからの時代を生きる子どもたちに必要な「学びに向かう力」の育成、「基礎的・基本的な知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成につながると考えるからです。

学びに向かう力 ～自ら学び、自ら考えを深めていこうとする力がこれからの時代に求められる～

外出自粛と学校が休業している現在、子どもたちは、家庭で自主的に学習を進めるしかありません。この自発的・主体的な学習こそ、これからの時代を生きる子どもたちにとって最も必要な力です。人工知能（AI）技術の進歩に代表されるように情報技術や科学技術が激しく進歩しています。一方で、エネルギーや環境の問題、今回のようなグローバル化の中での感染症の問題など、子どもたちが生きるこれからの時代には、これまで聞いたこともなかった問題が起こるかもしれません。それらを解決していくには、常に学び続けることが必要です。変化が激しく、問題の多い時代を生きるには、自ら学び、自ら考えを深めていこうとする「学びに向かう力」が求められるのです。

独学の効果 独学のよさ ～自分の学び方を身に付けられる～

この連休に、恩師から紹介され、『東大教授が教える独学勉強法』（柳川範之 草思社）という本を読みました。柳川先生が教えている東京大学の大学院生の方々が同じことを学んでも、理解する速さや理解することの順番は人によって異なるし、理解が早いほうがよりよく理解できているとは限らないのだそうです。どういう順番で勉強すれば頭に入るかというのにも人によって大きく違うそうです。

自分の意志で学び始め、自分のペースで学び続けたことで、今もっている力を身に付けた、という方は、保護者の皆様の中にもいらっしゃるのではないのでしょうか。家庭で独学を行うことで、子どもたちは自分の学び方、学びのペースをつかむことができるはずで、加えて、わからないことについて自分で考えるという習慣を身に付けることができると思います。

教科書を読める力を育む必要性 ～教科書を読んで自分の考えをもつ子に育てたい～

子どもたちには、自分の考えをもち、間違いを恐れずに発言して友達と対話し、学びを深められるようになってほしいと考えます。学校では、教科書を読んで自分の考えをもちノートに書くこと、教科書にある資料を見て気づいたことや疑問に思ったことをノートに書くこと、といった学習活動を頻繁に行っています。この休業期間中の家

庭学習においても、そのような学習を続け、子どもたちが自分の考えや気づき、疑問を自由に表現できるようにすることが重要だと考えます。

教科書を一人で読むのは難しい？ ～まずは1回読み、2・3回と読むうちにわかるようになっていく～

保護者の皆様の中には、中学・高校時代に、次の日の授業の予習のために教科書を読んでノートにまとめた、という方もいらっしゃるかもしれません。授業の前に教科書を読んでおくということは、子どもたちの理解を助けます。東京大学の市川伸一先生は、「教えて考えさせる授業」というのを提唱しています（市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる』小学館）。これは、学習を進めていく上で必要な基礎的・基本的な内容を、すべての子どもが同様にもらった上で学習を始められるようにするという考え方に立った指導方法です。学習を進め、問いに対する自分の考えを子どもたちがもつためには、必要な知識を子どもたちが皆同様にもつ必要があるということです。そのために、「教科書を積極的に使い」「教科書を丁寧に読むことから始める」ことが大切であり、「教科書を読んで、よくわからないと思った文や図表に付箋などでしるしをつけると、いろいろな疑問がわいてくる」と述べています。

教科書を1度読んだだけでは理解できない子どももいます。2度、3度読んでいくうちにわかるようになる子もいれば、まだわからないところがあると思う子どももいるでしょう。しかし、自分で繰り返し教科書を読んだという経験は、学校再開後の学習にきっと生きて考えます。

読解力の育成 ～AIのできないこと=意味を理解することができると～

人工知能（AI）技術の研究が急激に進歩していることはよく耳にします。国立情報学研究所の新井紀子先生の著書を読むと、次のようなことが書かれていました。

- ・AIは計算機である。計算機は数学の処理を行っている。数学が行っているのは論理と確率と統計である。だから、AIが行っているのは、論理と確率と統計の計算である。
 - ・AIは意味を理解しない。意味を理解しているように見えているだけである。AIでは肩代わりできない分野とは、読解力と常識、人間らしい柔軟な判断が要求される分野である。AIに代替されない人材とは、意味を理解する能力を持った人である。
 - ・日本の若者の読解力が下がっている。教科書が読めなければ、問題を理解することができない。中学校を卒業するまでに、なんとしてでも、教科書が読めるようにしないとならない。
- 『AI vs 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社

子どもたちの読解力を向上させたいと考えます。そのために、まず教科書を読むことができる子どもになってほしいと考えるのです。

家庭学習習慣の定着 ～同じ時刻に始め、決めた時間や決めた分量で終える。終わるときはほめてあげて～

そうは言っても、子どもを机に向かわせるのは大変なことだと感じになられている方もいらっしゃると思います。臨時休業中、子どもたちが家庭学習を行っていくことで、保護者の皆様にはご負担をおかけしていることと思います。ほんとうにありがとうございます。

文部科学省が実施している「全国学力学習状況調査」で毎年高い正答率を示している秋田県の「家庭学習」の取組について紹介する書籍は多数出版されています。それを読むと、学習習慣の定着のために必要な約束事の中で最も大事なのは毎日同じ時刻に学習を始めることなのだそうです。そして次のようにも書かれていました。「家庭学習ノートが定着するまでは、子どもが学校から帰ってきたら、今日の様子について会話し、最後に『宿題は？』と問いかける。今日の出来事を振り返るように話しかけることで、子ども自身が1日の行動をおさらいできる。『宿題は？』の一言の中に、親は『勉強は大事だと思っているんだよ』というメッセージが詰まっている。この意識が家庭学習を定着させることにつながる。」（主婦の友社編『勉強グセと創造力が身につく秋田県式家庭学習ノート』から要約）

子どもたちが、学習課題に自主的・主体的に取り組んでいくことは、必ず子どもたちの学力向上につながると考えています。保護者の皆様には、学習に向かう子どもたちをほめて取り組ませていただきたく思います。そして、不安なことわからないことがありましたら、いつでも学校にお問い合わせください。一緒に考えてまいります。

今後も、中野区教育委員会と連携し、子どもたちの健康と安全を第一に考えながら、学校再開に向けて準備してまいります。情報が入り次第、情報配信メールやホームページにてお伝えいたします。引き続きご確認ください。子どもたち、保護者・地域の皆様が健康にお過ごしになれますよう、お祈りいたしております。